

平成29年度 学校評価報告書

【評価値】アンケート(回答)
 ① そう思う(良い)⇒4点
 ② 大体そう思う(ほぼ良い)⇒3点
 ③ あまりそう思わない(あまり良くない)⇒2点
 ④ そう思わない(良くない)⇒1点
 ⑤ わからない(実態が分からない)

【肯定的評価(%)】
 わからない(実態が分からない)を除いた回答総数(①+②+③+④)における
 肯定的意見(①+②)の割合

【4段階評価】
 A: 十分に達成できている状況
 B: 概ね達成できている状況
 C: どちらかといえば達成できていない状況
 D: ほとんど達成できていない状況

教育目標	重点目標	分掌	学校評価実施項目	学校評価質問項目	肯定的評価(%)			評価値			自己評価		学校関係者評価	
					教員	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	評価	概評と改善策	評価	概評
時代の求める「学力・社会力・人間力」を身につけ、島根を愛し/世界を志す/心豊かな人づくりの推進	(1)学力の育成 ①主体的に学ぶ姿勢の育成と、家庭学習習慣の確実な定着。 ②基礎基本の徹底と定着。それを支える授業手法と教材の工夫・改善。 ③大学入試改革に対応しうる、発信型学力・コミュニケーション力の育成。 ④ハイレベルの文武両道。部活動と学習・学力との相乗効果をもたらす指導。	教務	学習習慣確立	学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図ることができたか。 【自己評価】 / そう指導しているか。	84.21	73.05	86.33	2.93	2.85	3.12	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教職員の間で、特に「主体的に学習する姿勢」について意識の差が大きい。授業や補習などで使用する配布物の精選を各教科で検討し、必要以上に与えずきないように努めることで学習に向かう意識改革を図る。 ・学びに対する積極的な姿勢の構築について、生徒は9割、保護者も8割以上が肯定的評価であった。教職員の評価が低いのが、生徒の現状と教職員の理想とのギャップが反映された結果である。学びへの積極的な姿勢を身につけさせる対策として、学習における内発的動機づけが必要であると考える。学校の教育活動の様々な機会を捉えて、生徒個々の「やる気スイッチ」を押せるように、学年部を中心に指導・支援していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【学習習慣の確立】【生徒の主体的な学習活動】 ・多量の課題が出される。教材(課題)の早めの配布や補習専用教材の準備、補習計画の提示などをして、生徒が計画的に準備できる指導をお願いしたい。 ・人生の目標設定をして勉強させるような学習指導を学校にはしてほしい。学校で勉強するのは何のためかという話を生徒、教員、保護者で行う必要がある。生徒が人生目標を設定し自らの学習をルーチンワーク化できるかが、学習習慣の確立に繋がるはずである。 ・高校での学習習慣は入学前に確立させねばならない。そうした環境を小・中学校、家庭で作らねばならない。何のために勉強するのかも学習習慣の確立に関わるので、そのことも含めて指導をお願いしたい。
		教務	生徒の主体的な学習活動	主体的に学習に取り組むことができたか。 【自己評価】 / そう育成しているか。	96.55	72.23	81.76	3.14	2.86	3.02	B			
		1学年	生徒の主体的な学習活動	教職員は、生徒自身が「学ぶことの意味」を考え、学びに対し積極的な姿勢を身につけるよう、指導しているか。	74.14	91.67	81.50	2.79	3.31	3.11	B			
		2学年	生徒の主体的な学習活動	教職員は、学力の基礎・基本定着を目指し、主体的な学びを大切に学習指導に努めているか。	82.46	89.43	87.25	2.96	3.15	3.05	B			
	(2)社会力の育成 ①計画的・実効的なキャリア教育。その視点からの進路指導と進路実現。 ②部活動・ボランティア活動への積極参加。社会性や協働意識の育成。 ③環境美化意識、主権者意識など、一社会人としての自覚涵養。 ④異文化理解。多様な価値観に関心を持ち、またこれを受容する意識を育成。	進路・キャリア	計画的・実効的キャリア教育	自分の将来の職業、働き方、進路などを考えたり決めたりできるように、教育活動(キャリア教育や進路講演会等)が行われているか。	94.83	96.91	90.27	3.29	3.58	3.19	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね高評価であった。「進路のしおり」の改訂や、2年生向け進路指導行事の改善、保護者向け進路講演会参加者数増加の取組などの成果と考える。来年度は進路関係LHRの準備に早期から取り掛かり、より効果的な活動を行いたい。 ・本校生徒の大部分は進学志望だが、その進路先は多岐に渡る。どの生徒にも手厚い指導ができるよう、指導力向上に努めたい。 ・1年生の部活動加入率が例年に比べ低めであったが、様々な場面で生徒の活躍が見られた。引き続き家庭とも連携を取りながら指導していきたい。 ・教職員による清掃評価は厳しいものであったが、引き続き全教員で監督し、時間いっぱい清掃活動に取り組むよう指導していきたい。 ・「面談等を通じた将来の展望を持たせる指導」は、ほぼ目標を達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【計画的・実効的キャリア教育】 ・キャリア教育に力を入れてきたのは大変良い。1年次から県外に行ったり、地元企業の話や向うの良き取り組みである。将来何になるかを決めていない子どもが多い中、様々なことを見聞きするのは良い。スマホ越しに世の中のことを見ず、自ら体験し、見聞きすることで自分のキャリアを決定するのは良い。 ・「地元企業ガイダンス」に参加した企業側の南高評価は高かった。一旦県外に出て将来戻ってきてもらうには、高校でこうした機会を設定するのは良い。 ・理数科の研修が結果的にどこに繋がるのか分かりにくい。中学生やその保護者は、理数科を出た後の進路(出口)に関心がある。 ・理数科と普通科の交流があまりなく、理数科で学ぶ意義が在学中も卒業後も科内だけで完結する。その結果、中学生やその保護者に実態が伝わりにくい。
		進路・キャリア	計画的・実効的キャリア教育	自分の進路を研究したり決めたりするために、資料提供や教員との面談など、個人に応じた進路指導が行われているか。	94.83	94.41	84.36	3.26	3.48	3.09	B			
		生徒	諸活動への積極的参加	部活動をはじめとする様々な活動への積極的な参加や自主的な取り組みができたか。【自己評価】	92.98	85.88	87.16	3.11	3.30	3.26	B			
		保健	環境美化意識	あなたは、清掃時間中、熱心に清掃を行っているか。【自己評価】	71.93	92.44	-	2.75	3.31	-	C			
	(3)人間力の育成 ①確たる人権尊重の意識と、自らを大切にし他者を思いやる心の育成。 ②基本的生活習慣の確立。心身の健康と自律的生活態度の育成。 ③特別支援教育視点にもとづく正しい倫理観と行動規範の育成。 ④読書と図書館利用の推進。読書習慣による、生涯を-spanとした人間力育成。	人権・同和教育	人権意識	南高では、互いの人権を尊重し人権意識を高めるための教育活動が行われているか。	92.98	90.84	85.16	3.07	3.23	3.02	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒評価は昨年同様高かった。人権・同和教育LHRで生徒が高校生活を前向きに取り組める視点と、今後の人権意識高揚のための教材取り入れの反映と考 ・服装・頭髪検査をはじめ、全校で共通理解をもって指導ができた。今後も校内連携を図りながら、生徒個々の問題に取り組むたい。 ・読書支援や課題解決学習への支援、広報やイベントの開催については、教職員、生徒とも昨年度を上回る高い評価であった。今後は「主体的・対話的な深い学び」の実現をサポートできるように取り組んでいきたい。 ・生徒支援部会や特別支援部会を開催することにより、当該生徒について関係者が情報を共有し対応を検討する場があることで、担任の負担感軽減できている。今後は相談後の状況把握を行うなど、学年会と連携しながら改善に努めたい。 ・自己の抱える悩みや問題を訴えてくる生徒や、子どもが抱える問題について真率な相談を寄せてこられる保護者に対しては、今後も丁寧できめ細やかな対応を進めていく。 ・自律的な生活の確立について、教職員や生徒は9割以上、保護者も9割近くが肯定的評価であった。入学直後より10分前登校を生徒や保護者に呼びかけて指導してきたことが反映されている。今後も家庭と連携し、生徒が自律的な生活を確立し、それを継続できるように指導・支援していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【教育相談・特別支援】 ・スクールカウンセラーに相談に行く生徒が全体の10%いることに驚きがある。多いと思う。相談に行く人が10%なのか、相談に行きたくても行けない人が潜在的にいるのかをもう少し調べてみる必要があるかもしれない。 ・スクールカウンセラーへの相談に行く人が10%という数字は少ないのではないだろうか。心に悩みを抱えた学生は大学でも5人に1人は存在している。 【保護者との連携・生徒理解】 ・学校では熱心に指導していただいているが、学校の良い状況を子どもから親に伝えてほしくても、高校生の子どもたちは口を閉ざしてしまうことが多い。その結果、学校での出来事が保護者に伝わりにくくなるのではないか。 ・生徒の進路先のマッチングが学校側と保護者側でうまくいっていない場合、保護者との連携という点で評価が下がってしまうこともある。 【その他】 ・個人的な経験では、南高の体制が生徒に充実感を与えているのも事実である。卒業後も学校が楽しいと言う南高卒業生がいる。南高の授業が充実感や充足感をもたらしめていることも事実である。 ・中学校との連携を考えていくことも大切である。 ・卒業生会として可能な限り学校と連携協力していきたい。 ・学校評価の数値は小・中学校でも同じような傾向がある。教員の努力は感じている。
		生徒	規範意識	学校の指導や家庭の働きかけにより、交通ルールをはじめ、公共のルール・マナーの向上に努めることができたか。【自己評価】	85.96	90.63	79.22	3.04	3.34	2.92	B			
		生徒	基本的生活習慣	学校の指導や家庭の働きかけにより、10分前登校が習慣化できたか。【自己評価】	68.52	75.19	74.92	2.70	3.14	2.98	C			
		図書	図書館活動	図書館は読書支援とともに、自ら考え学ぶ姿勢が身につくよう、課題解決学習への支援を行ったか。	98.28	90.34	-	3.50	3.37	-	A			
図書		図書館活動	図書館からの広報(「図書館だより」等)やイベント開催(ビブリオバトル等)は工夫されていたか。	100.00	93.46	-	3.41	3.34	-	A				
保健		教育相談・特別支援	教職員やスクールカウンセラーに、悩みや困っていることを相談したことがあるか。	-	96.55	88.16	-	3.43	3.42	B				
保健		教育相談・特別支援	多様な困難を抱える生徒の教育相談や特別支援は充実しているか。	84.21	-	-	3.02	-	-	B				
1学年		生徒の自律的生活支援	教職員は、遅刻・欠席をしないなど、生徒が自律的な生活を確立できるよう、指導を行っているか。	93.00	91.56	88.83	3.09	3.42	3.22	B				
2学年		保護者との連携・生徒理解	生徒面談や保護者との連絡を密にして情報を収集し、生徒理解に努め、これに基づいた指導ができたか。	86.20	89.60	79.30	3.20	3.30	3.10	B				
3学年		生徒の自律的生活支援	教職員は自律的な生活の確立を心がけさせ、進路実現に向けて自立した行動ができるように指導したか。	77.60	92.60	72.60	2.90	3.30	3.00	B				
3学年		保護者との連携・生徒理解	生徒面談や保護者との連絡を密にして情報を収集し、生徒理解に努め、これに基づいた指導ができたか。	93.10	90.30	71.70	3.20	3.30	2.90	B				